



<ベトナム・リサーチ・レポート>

情報提供用資料

2020年4月1日

世界銀行のアジア経済見通し

アセアンは1%台、悲観シナリオならマイナス成長

世界銀行が3月30日発表した“World Bank East Asia and Pacific Economic Update, April 2020”のアジア経済成長見通しによると、アセアン全体の経済成長率は、基本シナリオ（コロナウイルスによって急減速した経済が、コロナウイルスの収束後力強く回復し、2021年後半には通常の成長トレンドに戻る場合）では+1.3%（2020年）、+5.7%（2021年）となっている。

アセアンの中では、ベトナムが+4.9%（2020年）、+7.5%（2021年）と域内をリードする成長を維持すると見込まれている。

悲観的なシナリオ（コロナウイルスの拡散が長引き、企業倒産や金融機関の信用問題にまで発展する場合）では、アセアン全体は2020年は-2.8%と、マイナスに成長になると予測している。

国・地域	19年*	20年		21年	
		基本	悲観	基本	悲観
ベトナム	7.0%	4.9%	1.5%	7.5%	4.0%
ラオス	4.8%	3.6%	2.2%	5.8%	3.7%
ミャンマー	3.0%	3.0%	2.0%	6.0%	4.0%
フィリピン	5.9%	3.0%	-0.5%	6.2%	4.1%
カンボジア	7.1%	2.5%	1.0%	5.9%	3.9%
インドネシア	5.0%	2.1%	-3.5%	5.6%	5.2%
マレーシア	4.3%	-0.1%	-4.6%	6.4%	4.1%
タイ	2.4%	-3.0%	-5.0%	4.0%	3.0%
ASEAN	4.7%	1.3%	-2.8%	5.7%	4.4%
中国	6.1%	2.3%	0.1%	7.7%	5.5%
EAP（東アジア・太平洋地域、先進国を除く）	5.8%	2.1%	-0.5%	7.3%	5.3%

* = 推定値

基本シナリオ=新型コロナウイルスによって急減速した経済が、コロナウイルスの収束後力強く回復する場合。

悲観シナリオ=コロナウイルスの拡散が、基本シナリオよりも長引き、その収束後の経済の回復も緩やかである場合。

出所：世界銀行

以上